４種混合（DPT-IPV） ｼﾞﾌﾃﾘｱ・百日せき・破傷風・ポリオ
３種混合（DPT） ｼﾞﾌﾃﾘｱ・百日せき・破傷風
２種混合（DT） ｼﾞﾌﾃﾘｱ・破傷風
ポ リ オ（IPV）

予防接種説明書

予防接種を受ける前に以下をよくご覧ください。わからないことは接種を受ける前に医師にご質問ください。

【どんな病気？】

◆ジフテリア

ジフテリア菌の飛沫感染(咳やくしゃみ等により感染すること)で咽頭、鼻に感染します。症状は高熱、のどの痛み、犬が吠えるような咳、おう吐などで、偽膜（炎症により膿などが加わってできた膜様のもの）を形成して窒息死することもあります。発症 2～3 週間後には、菌の出す毒素によって心筋障害や神経麻痺をおこすことがあります。

わが国では 1981 年に 3 種混合（DPT:ジフテリア・百日せき・破傷風ワクチン）が導入され、1999 年以降の発生はありません。かつては年間 8 万人以上の患者が発生し、そのうち 10%程度が亡くなっていた病気です。旧ソ連圏では 1990 年～1995 年にワクチンの供給不足などが原因で大流行しましたが、ワクチンの接種強化により、ジフテリアは再び減少しました。今後ワクチン接種者が減少した場合や、海外からの持ち込みにより流行する可能性が懸念されます。

◆百日せき

百日せき菌の飛沫感染(咳やくしゃみ等により感染すること)でおこります。百日せきは風邪のような症状ではじまり、せきがひどくなり、顔をまっ赤にして連続的にせき込むようになります。せきの後、急に息を吸い込むので、笛を吹くような音がでることがあります。乳幼児はせきで呼吸ができず、くちびるが青くなったり（チアノーゼ）、けいれんをおこすこともあります。

肺炎や脳症などの重い合併症を起こすなど重症化しやすく、乳児（特に生後 6 ヶ月未満の乳児）では命を落とすこともあります。

◆破傷風

破傷風菌は土の中にひそんでいて、傷口から人へ感染します。傷口から菌が入り身体の中で増えると、菌の出す毒素のために、口が開かなくなったり、けいれんをおこしたり、呼吸筋の麻痺で死亡することもあります。また、菌の侵入部位は特定できないほどの軽い傷の場合もあります。この病気は人から人へ感染するのではなく土の中にいる菌が原因ですが、世界中どこでも菌はいますので、感染する機会はあります。

◆ポリオ

ポリオウイルスは人から人へ感染します。便中に排泄されたウイルスは間接的に他の人の口から入り、咽頭または腸から吸収されて感染します。成人が感染することもありますが、乳幼児がかかることが多い病気です。ウイルスは 3～35 日間（平均 7～14 日間）腸の中に潜伏し、血液を介して脳・脊髄へ感染します。感染すると、カゼ様の症状を呈し、発熱、頭痛、おう吐があらわれ麻痺が出現します（麻痺の発生率は 1,000～2,000 人に 1 人）。一部の人はその麻痺が永久に残ります。呼吸困難により死亡することもあります。しかし、ほとんどの例は不顕性感染（病気としての症状が出ず、知らない間に免疫だけができる感染のこと）で、終生免疫（免疫が身体の中に一生涯にわたって記憶され、その病気にかからないですむこと）を獲得します。

わが国では昭和 35 年にポリオ患者の数が 5,000 人を超え、かつてない大流行となりましたが、予防接種の導入により流行がおさまり昭和 55 年から国内での自然感染例は報告されていません。現在は、アフガニスタン、パキスタンなどの南西アジアやナイジェリアなどのアフリカ諸国での発生がみられます。

【どんなワクチン？】

【４種混合（DPT - IPV）・３種混合（DPT）・２種混合（DT）ワクチン】

不活化ワクチン（病原体となるウイルスや細菌の感染する能力を失わせたものを原材料として作られたワクチン）とトキソイド（病原体となる細菌が作る毒素だけを取り出し、毒性をなくして作られたワクチン）の混合ワクチンで、初回 3 回と追加の接種により 100%の抗体獲得が認められています。

お子さんの定期接種の場合は、4 種混合（DPT-IPV）ワクチン、または 3 種混合（DPT）ワクチンを、標準として 1 期初回接種は 20 日以上（標準的には 56 日まで）の間隔をあけて 3 回接種後、6 か月以上の間隔をあけて(標準的には 12～18 か月の間に)追加接種を 1 回行います。

また 2 期として 11～12 歳時（小学 6 年生）に 2 種混合（DT）ワクチンを接種します。

確実な免疫をつくるには、決められたとおりに受けることが大切ですが、万一間隔があいてしまった場合でも、はじめからやり直すことはせず、規定の回数を超えないように接種します。

【ポリオワクチン（IPV）】

ポリオウイルスを不活化し（＝殺し）、免疫をつくるのに必要な成分を取り出して病原性をなくして作ったものです。このワクチン接種によってポリオ（急性灰白髄炎）による麻痺などを予防します。製造工程に外国産のウシの血液成分（血清）を使用していますが、本剤接種による伝達性海綿状脳症（TSE）伝播のリスクは理論的に極めて低いと考えられています。（海外でも過去に人に伝播した報告例はありません）。

【副反応は？】

【4 種混合（DPT-IPV）・3 種混合（DPT）・2 種混合（DT）ワクチン】

1981 年に百日せきワクチンが改良されて新しい精製ワクチンに変わって以来、副反応の少ない安全なワクチンになっています。 主な接種部位の副反応として、発赤、硬結（しこり）、腫れなどがあり、接種部位以外の副反応として発熱、下痢、鼻水、せき、発しん、食欲減退、咽頭発赤、おう吐などがあります。接種部位の硬結（しこり）は少しずつ小さくなりますが、数か月残ることがあります。上腕全体が腫れた例も少数ありますが、これも湿布などで軽快します。腫れが目立つときなどは医師にご相談ください。極めてまれに、ショック、アナフィラキシー様症状（接種後 30 分以内に出現する呼吸困難等の重いアレルギー反応、血小板減少性紫斑病、脳症、けいれんなどがみとめられます。

【ポリオワクチン（IPV）】

不活化ワクチンは、ウイルスとしての働きはないので、ポリオと同様の症状が出るという副反応はありません。国内臨床試験でみられた 1 週間以内の副反応は、注射部位の症状（赤み・腫脹・痛みなど）、熱（37.5℃以上）などで多くは 2～3 日で消失します。

【接種対象年齢・回数・間隔等】

① 定期接種（大阪市の場合）

予防接種名		対象年齢	標準的な接種年齢	回数	接種間隔
4 種混合(DPT-IPV) ｼﾞﾌﾃﾘｱ・百日せき・破傷風・ﾎﾟﾘｵ ※1	1 期初回	生後 3 から 90 か月に至るまで	生後 3 から 12 か月	3 回	20 日以上の間隔をあけて 3 回
	1 期追加		1 期初回終了後 12 から 18 か月	1 回	初回 3 回終了後 6 か月以上の間隔をあけて 1 回
3 種混合(DPT) ｼﾞﾌﾃﾘｱ・百日せき・破傷風	1 期初回	生後 3 から 90 か月に至るまで	生後 3 から 12 か月	3 回	20 日以上の間隔をあけて 3 回
	1 期追加		1 期初回終了後 12 から 18 か月	1 回	初回 3 回終了後 6 か月以上の間隔をあけて 1 回
2 種混合(DT) ｼﾞﾌﾃﾘｱ・破傷風	2 期	11 歳以上 13 歳未満	小学校 6 年生	1 回	
ポリオ(IPV) 急性灰白髄炎 ※2	初回	生後 3 から 90 か月に至るまで	生後 3 から 12 か月	3 回	20 日以上の間隔をあけて 3 回
	追加		初回終了後 12 から 18 か月	1 回	初回 3 回終了後 6 か月以上の間隔をあけて 1 回

※1 平成 24 年 11 月から 4 種混合が開始されました。また、平成 26 年 4 月から 4 種混合の接種間隔の上限が撤廃されました。
※2 平成 24 年 9 月より、ポリオ生ワクチン（経口）から不活化ポリオワクチン（注射）に切り替わりました。

② 任意接種

任意接種の場合は、定期接種の回数・間隔に準じて接種します。成人の場合は、子どもの頃の接種歴などにより、必要となる接種回数が異なります。

予防接種名	当センター接種料金
4 種混合(DPT-IPV) ｼﾞﾌﾃﾘｱ・百日せき・破傷風・ﾎﾟﾘｵ	￥13,000
3 種混合(DPT) ｼﾞﾌﾃﾘｱ・百日せき・破傷風	￥ 5,000
2 種混合(DT) ｼﾞﾌﾃﾘｱ・破傷風	￥ 5,000
ポリオ(IPV)	￥10,000

接種後の注意

・接種当日の激しい運動は避けてください。

・接種部位に、発赤、いたみや硬結（しこり）をみることがありますが、特に心配はいりません。熱感あれば冷やして様子をみるようにしてください。

・特に異常な症状があった時には、主治医か休日診療所を受診し、その結果を当センター（℡06-6768-1486）へご連絡ください。

☆次頁の各ワクチン共通の説明書も、必ずご覧ください。

各ワクチン共通の説明書

1. 一般的な注意

（1）受ける予防接種について、この予防接種説明書をよく読んで、必要性や副反応についてよく理解してください。わからないことは予防接種を受ける前に質問してください。
（2）接種当日は、母子健康手帳を持ってきてください。（成人で母子健康手帳のない場合は結構です。）

◎受けられる方がお子さんの場合については、保護者の方は以下の点についても特にご注意ください。

（1）当日は体温を計り、朝からお子さんの状態をよく観察し、普段と変わった様子がないことを確認してください。接種に連れていく予定をしていても体調が悪いときはやめてください。
（2）お子さんの日頃の状態をよく知っている保護者の方がお付き添いください。
（3）予診票はお子さんを診察して接種する医師への大切な情報です。ありのままに記入してください。

2. 病気にかかった後の接種間隔

麻しん、風しん、水痘、おたふくかぜ等にかかった場合には、全身状態の改善を待って接種してください。医学的には、免疫状態の回復を考えて次の間隔をあけてください。

麻しん（治ってから 4 週間程度）	**風しん、水痘、おたふくかぜ**（治ってから 2～4 週間程度）
突発性発疹、手足口病、伝染性紅斑（治ってから 1～2 週間程度）	普通感冒や上気道炎（治ってから 1 週間程度）

3. 予防接種を受けることができない人

（1）明らかに発熱のある人（明らかな発熱とは、接種場所で測定した体温が 37.5℃以上を指します。）
（2）重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人。急性の病気で薬を飲む必要がある人は、その日は見合わせるのが原則です。
（3）予防接種の接種液の成分でアナフィラキシー（接種後 30 分以内に出現する呼吸困難や重いアレルギー反応のこと）を起こしたことのある人。
（4）BCG 接種の場合は、外傷などによるケロイドができたことがある人。
（5）その他、医師が接種不適当と判断した人。

4. 予防接種を受ける場合、医師とよく相談しなくてはならない人

次に該当すると思われる人は、かかりつけの医師がある場合には必ず前もって診ていただき、診断書又は意見書をもらってからご来院ください。

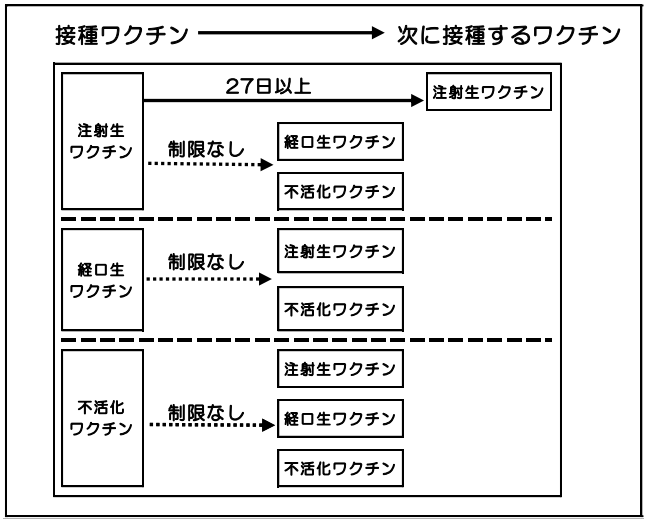
（1）心臓病、腎臓病、肝臓病や血液の病気及び発育障がいなどで治療を受けている人。
（2）予防接種後２日以内に発熱及び、全身性の発しんなどアレルギーを疑う症状がみられた人。
（3）接種しようとする接種液の成分に対して、アレルギーの症状が出るおそれのある人。
（4）今までにけいれん（ひきつけ）をおこしたことがある人。
（5）過去に免疫状態を検査して異常を指摘されたことのある人、近親者に先天性免疫不全症の方がいる人。
（6）家族、接触のあった友だちなどに、麻しん（はしか）、風しん、おたふくかぜ、水痘（みずぼうそう）などの病気が流行している時で、予防接種を受ける本人がその病気にかかっていない人。感染して潜伏期間（症状が出ない期間）中の場合がありますので、かかりつけの医師と事前によく相談してください。
（7）BCG 接種については、過去に結核患者と長期に接触があった人、結核に感染している疑いのある人。

5. 予防接種を受けた後の一般的注意事項

（1）予防接種を受けたあと 30 分以内に、急な副反応がおこることがあります。接種後は安静に待機し、体調に変化がないかどうか様子をみてください。
（2）接種部位は清潔にしてください。入浴は差し支えありませんが、接種した部位をこすることはやめてください。接種当日はいつも通りの生活ができますが、はげしい運動は避けてください。
（3）高熱、おう吐、けいれん（ひきつけ）など特に異常な症状があった時には、主治医か休日診療所を受診し、その結果を当センターへご連絡ください。

6. 予防接種の接種間隔

異なる種類のワクチンを接種する際、注射生ワクチンと注射生ワクチンは 27 日以上間隔をあける必要があります（下記の図をご参照ください）。



予防接種の種類
【注射生ワクチン】 麻しん風しん混合（MR） 水痘（みずぼうそう） 流行性耳下腺炎（おたふくかぜ） 結核（BCG） 黄熱
【経口生ワクチン】ロタウイルス（1 価・5 価）
【不活化ワクチン】 4 種混合（ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ） 3 種混合（ジフテリア・百日せき・破傷風） 2 種混合（ジフテリア・破傷風） インフルエンザ ポリオ 破傷風 日本脳炎 ヒブ（ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ菌 b 型） A 型肝炎 B 型肝炎 狂犬病 髄膜炎菌 肺炎球菌（13 価・23 価） HPV（ﾋﾄﾊﾟﾋﾟﾛｰﾏｳｲﾙｽ）

◎同じ種類のワクチンを複数回接種する場合、それぞれのワクチンに定められた接種間隔があります。医師とよく相談したうえで接種を受けてください。